

第4回入間市指定管理者候補選定委員会会議録

- 1 日 時 令和2年10月15日（木）9時25分～10時55分
- 2 場 所 入間市役所 5階 第4委員会室
- 3 出席者 委員長 友山宏一
委 員 鳥山政之、高山勇、宮岡実、新見輝明、福島和弘、小林由利、松下和英、
西村めぐみ
所管課 スポーツ推進課長 宮元良知、主幹 今井文香
図書館長 片寄貴之、主幹 萩原智明、副主幹 渡部慎一郎
事務局 企画部次長 浅見嘉之、企画課長 栗原康友、主幹 竹内一洋、
副主幹 齋藤謙次郎、主事 櫻木美智
- 4 欠席者 なし
- 5 対象施設 入間市地区体育施設等、入間市立図書館分館
- 6 議 事

- (1) 集計結果及び指定管理者候補の決定について
- (2) 今後のスケジュールについて

(1) 集計結果及び指定管理者候補の決定について

事務局より、最終的な候補の決定方法について、再度確認するため、次の説明をした。

申請を受けた施設所管課において、提案者が申請制限に該当するか否かを確認する「資格審査」については、全ての応募団体について、申請制限に該当していない。

「提案審査」は、各審査項目の採点結果のうち、より公平に評価するため、審査項目ごとに最高点と最低点を除いて算出した平均点（小数点以下第2位まで）をその審査項目の選定委員会としての評価点とし、総合評価点が最も高い提案者を指定管理者候補として選定する。総合評価点は募集要項で示した最低基準点を上回っていることも条件となる。

次に、本日の会議における各施設の指定管理者候補決定までの具体的な進め方について次のとおり説明し、委員の了承を得た。

候補の決定にあたっては、最初に「入間市地区体育施設等」、次に「入間市立図書館分館」の順に進め、施設ごとに候補者を決定させてから次の施設に移るという方法で進める。

候補の決定にあたり、最初に応募者それぞれの総合評価点を発表する。

次に、総合評価点が最も高かった法人が指定管理者候補となるが、審査の中で、他の

法人と比較しどの審査項目が高い評価を得ているかを説明する。

その後、各委員には、これらを踏まえ、審査で評価したポイントや意見、感想などを述べていただく。

いただいた意見等については、事務局で取りまとめ、最終的な委員会としての選定理由としたい考えである。

委員長：「入間市地区体育施設等」の集計結果を事務局から報告願いたい。

事務局：応募者である「公益財団法人 入間市振興公社（以下、「入間市振興公社」）」の総合評価点は233.20点である。「入間市地区体育施設等」の応募者は1社のみであり、最低基準点の210点を上回っているため「入間市振興公社」が候補者となる。次ページに、委員別の審査表を掲載している。

委員長：「入間市振興公社」が、高評価を得た審査項目について、事務局から説明をお願いします。

事務局：集計表の1ページに記載の7の②「申請団体の経営状況」、7の⑤「事業実績」、7の⑥「市との連絡調整に関する体制」、8の①「事故や災害等への対応及び体制」が、高評価を得ている。

委員長：只今、事務局から「入間市振興公社」の高評価を得た審査項目について説明があった。これらを踏まえ審査で評価したポイントや意見、感想をお聞かせいただきたい。

委員：利用者アンケートや専門機関の「第三者評価」でも高く評価されている。事業計画書では、今後も継続して、安心・快適な施設提供、適正な管理運営が行われることがうかがえるものであった。また、施設ボランティアの募集を行いながら、広く地区住民との連携・協働を推進する事業を企画しており、地域全体でスポーツを盛り上げる機運醸成が期待できる内容であった。

更には、地域包括支援センターなどの地域の関係機関との連携事業を提案しており、こうした取組は、施設利用者の新たな層を開拓し、施設の可能性を広げるものとして、大変有意義であると感じている。

また、今までの管理の実績についても評価する。

委員：地区体育施設ということで、地域とどれだけうまくやっていけるのかが重要と考える。また、入間市の目標として一人でも多くの方にスポーツに慣れ親しんでもらう機会を提供してもらえる事業者がいいという視点で、提案を評価させていただいた。

第三者評価において、高い評価をいただいております。運営の適正性が認められている。

その上で、これまでの事業実績を踏まえると、本市の社会体育活動の状況に精通

しているとともに、自治会、体育協会、運営委員会、その他の団体とも良好な関係にあることがうかがわれる。市との連携体制においても、これまでの運営実績から見ると非常にうまくやっていると感じる。

さらに、地区体育施設ではあるが、市としても昨今課題としている災害時等における対応についても、法人職員の8割以上が入間市民である点などを考慮すると、緊急時の地区体育施設の活用にあたって、市が求める運営の確保が図れるものと見込まれる。

施設管理面については、利用者アンケートでも満足度が高いことから、今の実績の中で十分対応できていることがうかがわれる。

事業については、新規性という視点では見るべきものが少ないが、地域包括支援センターとの事業連携による介護予防への取り組みなど、市としても必要性の高い事業については対応が図られており、地域との連携により事業展開を図る姿勢については評価できる。

よって、今回の応募者については、候補者として基準を満たしているものと判断した。

委員：他の公共施設を含め実績が豊富であるということで、安定した維持管理が見込めることや行政や地域の団体との連携がスムーズにとれるということが一番に評価した。また、施設利用者の満足度、第三者評価の結果についても概ね良好であったということ、それから「入間市振興公社」の組織がグループ制という形をとっており、体育施設グループ内あるいはグループ間の支援体制が組み立てられていることから、スケールメリットを生かした運営が期待できると感じた。

物足りない点としては、委託期間を含め長く業務に携わっている点から、マンネリ感があるのではないかと感じる。また、事業提案においても新鮮さに欠けるのではないかと見受けられた。自主事業も何点か掲げられていたが、そこに力点が置かれているようには見えなかった。望まれるのは地区住民が健康やスポーツの事業に参加してもらえるような取り組みであり、工夫や仕掛けを期待する。

委員：実績や経営状態についてまったく問題ないと考える。また、それ以外にも他から「入間市振興公社」についてネガティブな情報は特になく、平均点を下回るような点はなかったのではないかと感じており、今後の5年間の指定管理をお願いしてもまったく問題ないのではと考える。

ただし、管理に関する経費の削減に向けた考えや収支計画について、人件費について質問させていただいたところ、働き方改革の関係で予算が増えてしまうとの回答であったが、働き方改革だけで、何百万も人件費が上がるとは考えにくくそ

の点については評価を低くした。

委員：評価した点は、他の委員と同じになるが、これまでの実績や第三者評価の結果が良好であったという点は安心感を得られるものである。

改善点としては、利用者アンケートで「良い」の評価が増えているとのことであったが、委託している受付業務の接遇の問題が若干あるとのことから、さらなる研修の実施や指導を継続していただきたい。また、利用者サービスの向上や事業内容について、あまり目新しいものがないことから、もう少し参加してみたいと思われる提案があればよかった。さらに、利用者の平等利用ということで、障害者への言及はあったのだが、外国人の利用も増えていることから、さらに外国人の事業への参加を促す提案があればよかった。

委員：地区体育施設利用者としての感想は、5年間の指定管理者としてのノウハウの蓄積は非常に貴重であり、各施設に常駐する再委託業者の、業務遂行はもとより利用者との接遇も大変優れていると思う。また、従業員や利用者の健康及び衛生管理、特に新型コロナウイルス感染症予防対策など安全管理体制等も適切であり、安定的な管理運営を行う能力を有していると認められる。利用者増と高齢者の交流の場確保のため、教室事業やイベント事業など多様化する利用者のニーズへの対応についてはさらなる努力を期待する。利用者アンケートの結果においても高い満足度を得ており、専門家の第三者評価でも高評価であり、更なる活性化に期待したい。

委員長：各委員の意見をまとめると、基本的には「入間市振興公社」で良いのではないかという意見であった。一点目には、第三者評価、利用者アンケート結果等においても高い評価を得ていることと、そうしたことから安定的な運営も期待できるのではないか、ということであった。二点目としては、地域の団体あるいは地域包括支援センターといったところとの連携を取ることが期待できることがあった。三点目としては、緊急時の対応等についても、充実できるのではないかということもあった。また、少し気になることとしては、新規事業が若干少ないのではないか、事業がもう少し充実した方が良いのではないかとの点、あるいは委託業者の接遇等についてももう少ししっかりとしていただきたいということがあったと思う。全てをとりまとめ切れているわけではないが、概ね以上が各委員からの意見であったかと思う。いずれにしても、もう少し利用者、地域の方を外国人の方も含め呼び込んでもらい、さらにスポーツを推進していただきたいというのが、全体の意見であったかと思う。

私の意見としては、1社ではあるけれども市民サービスの向上が本当に図られる

のか、法人として経費削減等についてしっかりと考えていただいているのかに尽きるのかと思う。人件費の話を含めて、こういった点を審査の中で重視した。基準点はクリアをしているけれども、まだまだ改善の余地も残っているのではないかと思う。いずれにしても、経営状況、実績といったものはしっかりしているというのが大半の意見であったと思うので、新規の事業等をさらに充実させていていただきたい。

特に問題であるという意見もなかったと思うが「入間市振興公社」を「入間市地区体育施設等」の指定管理者候補として、決定してよろしいか。

全委員：異議なし。

委員長：「入間市地区体育施設等」の指定管理者候補を「入間市振興公社」に決定する。なお、「入間市振興公社」が辞退した場合は再度公募を行うこともあることを申し添える。以上で、「入間市地区体育施設等」の選定については終結とする。次に、「入間市立図書館分館」の集計結果を事務局から報告いただきたい。

事務局：応募法人「株式会社 図書館流通センター（以下「図書館流通センター）」の総合評価点は、249.60点である。応募法人「A」の総合評価点は、246.20点である。応募法人「B」の総合評価点は、227.60点である。よって、総合評価点が最も高かった、「図書館流通センター」が候補者となる。次ページ以降には、委員別の審査表を掲載している。

委員長：「図書館流通センター」が、高評価を得た審査項目について、事務局から説明をお願いします。

事務局：集計表の3ページに記載の1の②「利用者の平等利用の確保」、3の③「利用者サービスの向上」、3の④「自主事業の内容」、4の②「申請団体の経営状況」、4の③「職員配置の考え方」、4の⑤「事業実績」が、高評価を得ている。特に4の⑤「事業実績」については全ての委員が満点であった。

委員長：只今、事務局から「図書館流通センター」が、僅差ではあるが最も総合評価点が高いことから候補者であること、また、高評価を得た審査項目について説明があった。これらをふまえ審査で評価したポイントや意見、感想をお聞かせいただきたい。

委員：私もこの集計結果にあるとおり、「図書館流通センター」と応募法人「A」の評価が高かった。まず「図書館流通センター」については、今後の図書館のデジタル化と今の時代に即した提案を行っていただいた。特に電子図書館や児童・生徒向けの総合百科事典「ポプラディアネット」を、金額の範囲内で導入できるというお話もプレゼンの中であった。こういうところは、図書館のデジタル化を進め

る上で非常に魅力的な事業であると感じた。またロボットをプログラミングして動かす「プログラミング教室」についても、本当に興味深い提案もしていただいた。それとともにこれまで実施していただいている事業も継承していくということも謳っているようである。それプラス独自のサービスの展開を提案していただいているという形である。実績については、指定管理や受託についてかなりの数をしていただいているので、十分であると思う。気になった点は、電子図書館について入間市は本館が直営、分館が指定管理という体制を取っているため、やはりこういったものは一体となって行うという形になるので、今後調整が必要になると考える。

また西武分館、藤沢分館の土曜日・日曜日・祝日の開館時間を午後6時まで延長するという提案をいただいた。利用されている方にとっては利便性の向上ということになるかと思うが、本館の方もやはり分館が延長するとなれば歩調を合わせるということも出てくると思うため、調整していく必要があると考える。また非常勤職員の勤務時間についてシフト表を見た限り、一律で7.5時間となっているが、現在の非常勤職員の勤務時間は4時間や4.5時間という形になっている。もし指定管理を受託した場合は、今の職員も引き続き雇用するという提案もいただいているので、その場合は対応をしていただきたいと思う。

「ヴィアックス」については、現在の指定管理事業者であり、やはりこれまでの実績は担当部としても大いに評価させていただいている。特に民間のノウハウを生かした事業の実施というのを色々と多方面でやっていただいた。第三者評価も高い。本館は直営、分館は指定管理という入間市の現状についても十分認識した提案をいただいたことを、評価させていただいた。ただやはり新規事業について目新しさがなかったことが正直に言って残念だった。またデジタル化等にも触れたいところであったが、その点が弱かった。

委員：全体としては、3社とも、それぞれの実績に基づき、指定管理者としての基準は十分に満たしており、いずれが選定されたとしても、しっかりと運営していただけるものと捉えている。

図書館が地域の魅力づくりの一つとして捉えられてきており、市民のライフスタイルの多様化が進行する中、また、昨今のICTの急速な進展、特にコロナ禍以降の市民生活の変容等を踏まえると、図書館の果たす役割やサービス提供のあり方については、新たな視点からの取り組みが求められてくるものと思われる。

まず、「シダックス大新東ヒューマンサービス」は、提案自体も無難な内容であり、これまでに様々な施設の指定管理を受託してきた実績も十分であることから、受

託後の事業展開についても極めて実践的な提案であったとの印象である。しかしながら、多様な業務の受託実績のある事業者であるがゆえに、平均的な施設運営は期待できるものの、本市の図書館、地区の図書館としての特色を伸長させる取組みについては難しいのではと見受けられた。全体としては安定感があり、事業実施には十分に期待ができるものの、ある意味、提案の内容、事業者の実績とも、平均的なものと評価した。

次に、「図書館流通センター」は、さすがに図書館業務の第一人者ということもあり提案された事業計画及びプレゼンテーションの内容としては、充実を感じた。全国的な事業実績から見て、基本的な事業運営においては全く問題がなく、会社の規模、そして受託実績のスケールメリットを生かした提案についても高く評価できると感じた。その上で、今後のデジタルトランスフォーメーション化の中で積極的にデジタル技術を採用していく「電子図書館サービス」の提案や、本市の課題でもある書誌の充実が期待できる点など、今後の市民サービスの向上、また、GIGAスクール構想との連携を考慮すると大変魅力的な事業提案がなされていた。一方で大手事業者であるが故に、地域性を踏まえた施設運営と事業実施については新規ということで不安な部分もあると感じた。

最後に「ヴィアックス」は、これまでの5年間、分館運営を問題なく、円滑に行ってきたという実績は大きく、本市の状況を踏まえた極めて現実的で、堅実な内容であったものと評価した。その一方、新たな図書館業務の展開といった点からの期待値は低くならざるを得ず、事業提案に加え、施設運営での工夫や、経費縮減に向けた取組みについても、他の2社と比較して、新規性、優位性といった点では不足しているようにも感じられた。しかしながら、この5年間堅実に運営をしてこられた点、また、老朽化した施設を適正に管理してこられた点については高く評価できる。

いずれの事業者も全体としては非常に安定している印象があり、提案書通りの事業実施においては十分に期待させるものであった。しかしながら評点の順位を見ると、今、さまざまな面で社会や市民生活のあり方が大きく変わりつつある、そうした中で図書館のあり方についても新しい展開が求められることを踏まえてのものと思われ、全体集計の結果については得心がいくものと受け止めている。

委員：「シダックス大新東ヒューマンサービス」については、プラスポイントとしては一番安価な提案となっていることが、行政側としては評価は高い。またレファレンスサービスに力を入れているということで、「読む・調べる・学ぶ」といった図書館機能の充実が図られるということが期待できる点がプラスポイントである。

マイナスポイントとしては、必ずしもマイナスかどうかは分からないが、経費削減を優先させるがゆえにサービスの低下につながらないか、そういった懸念をしているところである。それから自主事業の提案を見た限り、他社と比べてそれほど優れているとは感じられなかった。また図書館以外の分野でも全国的に様々な分野で業務を手掛けている実績は高く評価したいが、逆に図書館の専門的な分野における力の発揮、そういったところが若干落ちるといった懸念をしたところである。

次に「図書館流通センター」については、なんといっても全国540館の図書館業務を受託しているという実績はかなり高く評価できる。やはり全国ネットの幅広いかつ図書館専門の業者であるため、専門性の高いサービスが期待できるという点、それから電子図書館の導入、書誌データの提案、いわゆるデジタル化を推進していくという上で現在の時代に即した方法で大変有効・魅力的と感じた。それからマイナスポイントとしては、人員配置や施設運営、人材育成等において、「効率性」という言葉を再三使っているが、確かに企業運営としては効率性を求めるのだろうが、そこを重視するあまり、人的サービスの低下というところにつながらなければ良いと感じた。それからやはり大きな会社であるため、地域に根差した事業展開といったところが、まだ新規というところもあるため少し弱い感じがするが、その点は逆に言えばこれから「図書館流通センター」が指定管理を受けた場合に期待するところである。

それから「ヴィアックス」については5年間の実績から安定した事業運営が望める、さらに経験に基づいて新たな事業展開も可能になるのでないか、というところである。具体的には、金子分館の利用者アンケートでの要望を受けた平日の開館時間延長の提案や、利用者増加への取り組みといった地域特性等を生かした計画から、各分館の地域の課題に対応した運営が期待できると思った。マイナスポイントとしては、先ほどの「図書館流通センター」で示されていたようなデジタル化の提案があまり強く見られなかった。いわゆる即時性や将来性に欠けるということがあった。今後、図書館の利用促進というところで、提案にはあるが強調するという内容にはなっていなかったため、なかなか利用促進に関する取り組みが見えてこなかった点が残念であった。

個人的には3社とも実績もあり甲乙つけがたいところではあるが、やはり「図書館流通センター」のデジタル化の推進等々がやはり魅力的であるのかなという感想を持っている。

委員：「シダックス大新東ヒューマンサービス」で感じたことは、人員配置がこれで足

りるのかと思った点がマイナスポイントになった。あとは3社とも経営状況や実績を見ると、とても良い会社なので甲乙つけがたく、その中でも点数に差をつけなければならないことに大変苦労した。大きなところでいうと、やはり皆さんおっしゃっている電子図書館、新しいことをやる中ではどうしてもやはり実績のある「図書館流通センター」にやっていただくことになるのが良いのかなと感じた。あとは本当に皆さんが言っていたところがあるが、個人的に思うのは儲かっているのもう少し従業員に対して給与を高くしてあげてほしい。今回の評価点に関しては納得している。

委員：私は「図書館流通センター」を一番評価させていただいている。皆さんがおっしゃっているところと重複するが、業界最大手であるため、安定感や安心感があるということと、提案の内容が非常に具体的であったため事業のイメージがしやすかった。例えば職員のシフト表を3社それぞれ作られてきていたが、「図書館流通センター」はタイムテーブルで業務の割り付けまでされており、かなり緻密にシミュレーションしていた点を評価した。あとは皆さんおっしゃっていた電子図書館の提案というのが、これからの時代には必要というところで、必ず利用者サービスも向上するし、図書館に来られない方も利用できるのも平等利用の面でもメリットがあると思う。

続いて「ヴィアックス」について、非常に今の地域に根差した各種事業を評価しているところであり、次の業者が継承はしてくれるということではあるが、指定管理の業者から外れるのはもったいないという気もしつつ、その他地元の利用者の声を伺っても非常にスタッフの接遇に対しても評判が良かった点は評価ができる。気になった点としては、個人情報管理方法について「図書館流通センター」の資料の中で写真付きで指摘されていたが、それに対して「ヴィアックス」が特に対応について言及されていなかったため、少し管理体制に不安を感じた。また、労務条件についても、一般的に比べて分館長の水準が低かったのもう少し上げて良いのではということを感じた。

「シダックス大新東ヒューマンサービス」について、他の委員の方もおっしゃっていたが、人員配置が他の2社と比べてギリギリなので、他から応援が来るという話があったが、少し不安が残った。研修、職員育成の面でも提案されている内容の限りではあるが、他の2社の方がより細かいプログラムを組まれていたということと、スキルアップ・ステップアップの流れが他の2社の方が分かりやすいと思われた。また基本的なところではあるが、審査票の冒頭の採点基準として「①基本方針、基本コンセプトの理解」の項目では事業を受託する積極性や意欲を見

るといふ評価点であると思うが、多くの箇所で西武分館の漢字が間違っていた部分について、そもそも誰も気付かないという受託に対しての意欲や真剣みに欠けると言わざるを得ないというところもあり、この項目の点数を下げたという次第である。

委員：非常に公正な評価をするということで悩んだ。3社のプレゼンを伺うと「図書館流通センター」が勝っているというイメージであったが、25分間のプレゼンで全てのことが分かるわけではないので、冷静に審査できるように何日か空けた。どのように公平な採点ができるかをずっと考えていて、プレゼンに引きずられすぎないようにすることと、同じ提案を3社しているが、実際にこの提案がそのまま事業として、また実際に活動してくれるのかという不安はある。ただ「ヴィアックス」は5年間の実績があるという点で、不安が少し軽減されるため、人間市で指定管理をしていただいているという実績を評価しなければならないということではあった。あとはその点で実績を加味して点数を付けたところもある。

「ヴィアックス」は職員の方が5年間本当に本館と一丸となって活動やサービスの向上に努めてくださった。まだまだ100パーセントとは思っておらず、改善の余地はたくさんあるが、直営から指定管理になってバタバタしている中で、ちゃんと地元で根付いて経営してくれたことに感謝している。総合評価点の約3点差で「図書館流通センター」に決まるとすると、不安な点はいくつかある。経費の削減や収支の項目の点数が他社と比べると低くなっているが、電子図書館に経費を投資するような形になっているので、それを同じ経費の中で指定管理をしていくということは、どこかにしわ寄せがくるのではないか。それにより今まで指定管理をしてきていた「ヴィアックス」のサービスより低下するのであれば、利用者としては少し困り、不安になる。投資の金額を計算していくと、児童書であれば何冊購入できるかということになってくるので、この投資が無駄にならないようにするには、かなりの努力や計画性が必要になってくる。また「図書館流通センター」は大きくて立派な会社であるが、本の売り込みをしたいのではないかという不安がある。売るといふことはそれだけ利益を上げないと困るわけなので、図書館そのものは本来売り上げを求める場所ではなくて、市民が利用するための施設であるから、その辺が企業としてどこまで出てくるかというのが心配である。そこをうまく調整しながらやっていただかないと、5年間が無駄になってしまうという点が心配である。

あとは長短や持ち味があるので、「ヴィアックス」の今のサービスを下げないような状態で続けていただくのが一番いいと思う。「ヴィアックス」は、実績もあ

るので、もう少し自分たちの評価を高く持ってプレゼンに臨んでくれたら違う評価だった気がする。またプレゼンのやり方も分かりにくいので、全て企業任せにするのではなく、委員が聞いているときに分かりやすいように、同じような形でプレゼンする項目を絞って、それについて説明してもらったほうが分かりやすいのではないかと。プレゼンのやり方も多少指定して良いのではないかと。そうでないと気の毒な会社が出たり、プレゼンに強い会社が有利になるということでは少し違うのではないかと。

委員長：「シダックス大新東ヒューマンサービス」については、経費等はかなり安価ということではあるが、非常に多種多様な業務を受託している中で、図書館の運営について大丈夫なのかという疑問の点があったということがあった。

私としては、老人福祉センターの新たな指定管理者としてやっていただいて、評判も上々であると承知をしているが、図書館については未知数なのかなということが少し不安な材料であった。しかし、経費等、市としては大分魅力的な提案をいただいたので、ここも良いのではないかと一定の理解はあったのかと思う。次に、「図書館流通センター」はデジタル化の関係について、非常に具体的に言われているので、こちらについては非常に皆さんが高く評価をしているということではなかったかと思う。電子図書館、図書館のデジタル化が、これからの時代には求められていくのかなということで、こうしたところを高評価させていただいたところであるが、今後経費等について追加経費が掛からないようにしっかりと判断していただきたいと思います。

「ヴィアックス」は、5年間の実績を見ると、本当に一生懸命やっていただいたので、そうした中で変わった場合にサービスが低下してしまうのではないかと不安の点もあるとお話があった。そうしたことについては、決定した候補に対して、ご意見としてしっかりと追加の取り組み案件として入れていただくことも考えられる。

私としては、本当に5年間頑張っていただいた中で、特に今年はコロナの影響等で、非常に図書館の方も利用方も貸し出す方もなかなか大変な状況であった中で、地域の方等とも連携していただいて、しっかりとやっていただいたことについては理解をするし、高評価を挙げられると思う。

3社とも積極的な提案をいただいたと思うが、コロナ禍等で新しいサービスの提供というものが一番大きなウエイトを占めた中では、「図書館流通センター」の方が若干、僅差ではあるが上回ったのかなという感じがしている。

以上が私の意見であるが、他に意見はあるか。

委員：この3社を見ても、給与が低く不安な印象を受けるが、この点についてある程度指定管理を募集する際に条件として出すことはできるのか。それとも相手の会社に任せて、会社の都合で契約をする形になるのか。あまりにも給与が低い状態で5年間雇用される方を考えると、今世間で言われている「ワーキングプア」等の問題もあるので、ただ安い費用で運営を丸投げしてしまって良いものなのかどうかという点が不安である。入間市はまだ本館が残っているけれども、もし全館指定管理となった場合、経費が安いのは良いことかもしれないけれども不安ではある。その点をどうされるのかということを考えていただいた方が良いという気がしている。

事務局：現在の指定管理をさせていただいている業者に対しては、毎年評価的なものを含めてチェックをしているところである。労働条件や法令遵守、今言われた労働の賃金的なものを含めて、適宜所管課を通してその業者に対して注意喚起等をしているところではある。今後新しい指定管理者が決まった場合も引き続き同じような対応を進めていきたい。

委員長：今事務局より説明があったが、いずれにしても法令は遵守していただくのも含めて、今回このような意見があったため、雇用の関係についてしっかりと守っていただきたいということについて付帯意見として付けるのが良いかと思うが、各委員におかれてはいかがか。

全委員：よろしい。

委員長：「図書館流通センター」を「入間市立図書館分館」の指定管理者候補として、決定してよろしいか。

全委員：異議なし。

委員長：「入間市立図書館分館」の指定管理者候補を「図書館流通センター」に決定する。なお、「図書館流通センター」が辞退した場合は順位を繰り上げ、次点の応募法人「A」を指定管理者候補とする。

以上で、議事(1)「集計結果及び指定管理者候補の決定について」を終結する。

委員長：全体を通して何か意見はあるか。

委員：既に決定をしたことで、そのことについては特にはないが、今最後に委員のお話を聞いて、もちろんプレゼンテーションの出来不出来についても、委員長からご指摘があり今後の検討課題であると思うし、また継続した事業実施の関係で、私も今回の中では「ヴィアックス」について、今まで非常に堅実にやってきていただ

いて特に悪い点があるわけではないのに選ばれないという点が、審査を行っていく上での難しさであると思う。5年間という指定管理の期間についても全国的に課題の一つという論議もあるかと思うので、今後変わってくる可能性もあるが、やはり私自身も悩んだ中では5年間で切り替えを考えていく中で、その時その時で行政側としても要求をしているものがあり、それを満足させてくれる会社を選んでいく、5年間の切り替え期間の中で選択していくということが良い面も悪い面も両方持っている。今回「ヴィアックス」については残念ではあるが、これからの時代の中で新しい提案を採択できるという点がこの制度の利点であり、今回の事業者を高く評価させていただいた。あくまでも感想だが、指定管理制度全体の大きな課題でもあると改めて認識した。

(2) 今後のスケジュールについて

委員長：今後のスケジュールについて、事務局から説明をお願いします。

事務局：来年4月に指定期間が始まるまでのスケジュールを説明する。本日をもって、全ての指定管理者候補を選定いただいた。指定管理者候補選定委員会は終了となる。今後は、事務局である企画課と所管課である、スポーツ推進課及び図書館において進める。

令和2年（10月下）指定管理者候補決定報告の市長決裁・・・企画課

（10月下）選定結果の通知（所管課へ）・・・企画課

（10月下）選定結果の通知（応募団体へ）・・・所管課

（10月下）庁議で協議事項として諮る・・・所管課

（11月中）市公式ホームページで会議録・選定結果を公表・・・企画課

（11月下）議案提出（12月議会）「指定管理者の指定」「債務負担行為の設定」
・・・所管課

（12月中）告示「指定管理者の決定」・・・所管課

令和3年（1月）指定管理者との協定書締結・・・所管課

（3月）広報いるま及び市公式ホームページで指定管理者の公表・・・企画課

以上の工程を経て、令和3年4月から指定管理者による運営が開始される。

委員長：事務局からの説明で不明な点はあるか。

全委員：特になし。

以上で、議事（2）「今後のスケジュールについて」を終結する。

7 その他 (事務局から) 先ほどの審議の中で指定管理の法人で働く方の雇用条件、あるいは労働条件の改善に関して付帯意見を付けることのご提言があった。その点については事務局と所管課とが協議した上で対応を図っていく。また事務局への意見としてプレゼンテーションのあり方、指定管理者の指定期間のあり方についても意見をいただいた。この点については事務局で検討させていただき、今後の参考とさせていただく。

以上